

拡大するSYP

ウッドショックで脚光

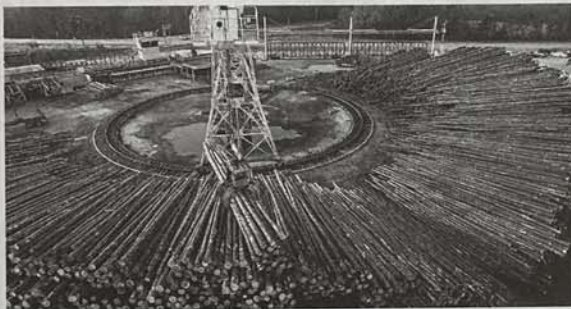
世界的な木材不足となったウッドショックの襲来により、米国南部に生育するサザンイエローパインへの注目度が高まっている。生長が早く、活発な植林によって蓄積量が飛躍的に増えており、米国のみならずカナダや欧州からも積極的な木材生産投資を呼び込んでいる。強度や耐久性の高さから日本にも輸入されているが、寸法精度の問題などからこれまで大きくは普及してこなかった。だが、近年は乾燥技術の向上で品質は各段に改善されており、ウッドショックを契機に多様な用途で採用が広がり始めている。

SYPは米国南部12州にまたがって生育するロングリーフパイン、ショートリーフパイン、ロブローリーパイ

のバイン主要4樹種の総称。南部の肥沃な大地と長期にわたる夏の暑さ、降雨量の多さが

製材生産、10年間で5割増

世界中から投資、植林面積はなお拡大中



インターフォー・スウェインズポロ工場のクレーン付き円形丸太置き場

生育に適した環境を生み、20〜30年で高さ約20分の成木となる。20世紀以降、製材、紙パルプ需要の拡大に呼応し、衰退する綿花畑に代えて積極的に植林されてきた。

5年ごとに発行される米国森林局の「Forest Resources of the United States」によると、2017年の森林面積は2910万

ヘクタールと、15年には75万7000ヘクタールの林区に10億本の苗木が植林されたという。植林面積はなお拡大しており、40年までに930万ヘクタールが新たに森林になると予測されている。

一方、工場の新増設投資が活発な米国南部は、20年の製材生産量が208億BF(3500万立方尺)と11年比55.9%増。過去10年間で5割以上増えた。この間、これだけ製材生産量を増やした国、

採量は年間1億4600万立方尺。森林はSFIやFSCの認証に基づいて管理運営され、米国南部林産物協会(SFPA)による00杉の林区に10億本の苗木が植林されたという。植林面積はなお拡大しており、40年までに930万ヘクタールが新たに森林になると予測されている。

FEA (Forest Economic Advisors)によると、世界の木材需要は25年に3億8000万立方尺と20年比30%増え、森林蓄積に対する伐採率は30%増えている。米国、中国の木材需要は3.9%増。二大消費国をはじめ新興国の需要が高まるた

めだが、木材供給がそこまで増えるかどうかは未知数だ。米国の木材供給の3割を担うカナダは主力産地であるBC州でピーク時(2010年前後)に最大8500万立方尺あった年間許容伐採量が足元では6400万立方尺、今後30年ごろにかけてさらに1000万立方尺前後減少すると予測されている。マウンテンパイロビートルの虫害木処理が一巡し、伐採から育林に軸足が移るため、この間、これだけ製材生産量を増やした国、

地域は他になく、さらに今後1年間で16億BF(270万立方尺)の増産投資が予定されているという。(つづく)